

## ふるさと創生に向けた大学との連携



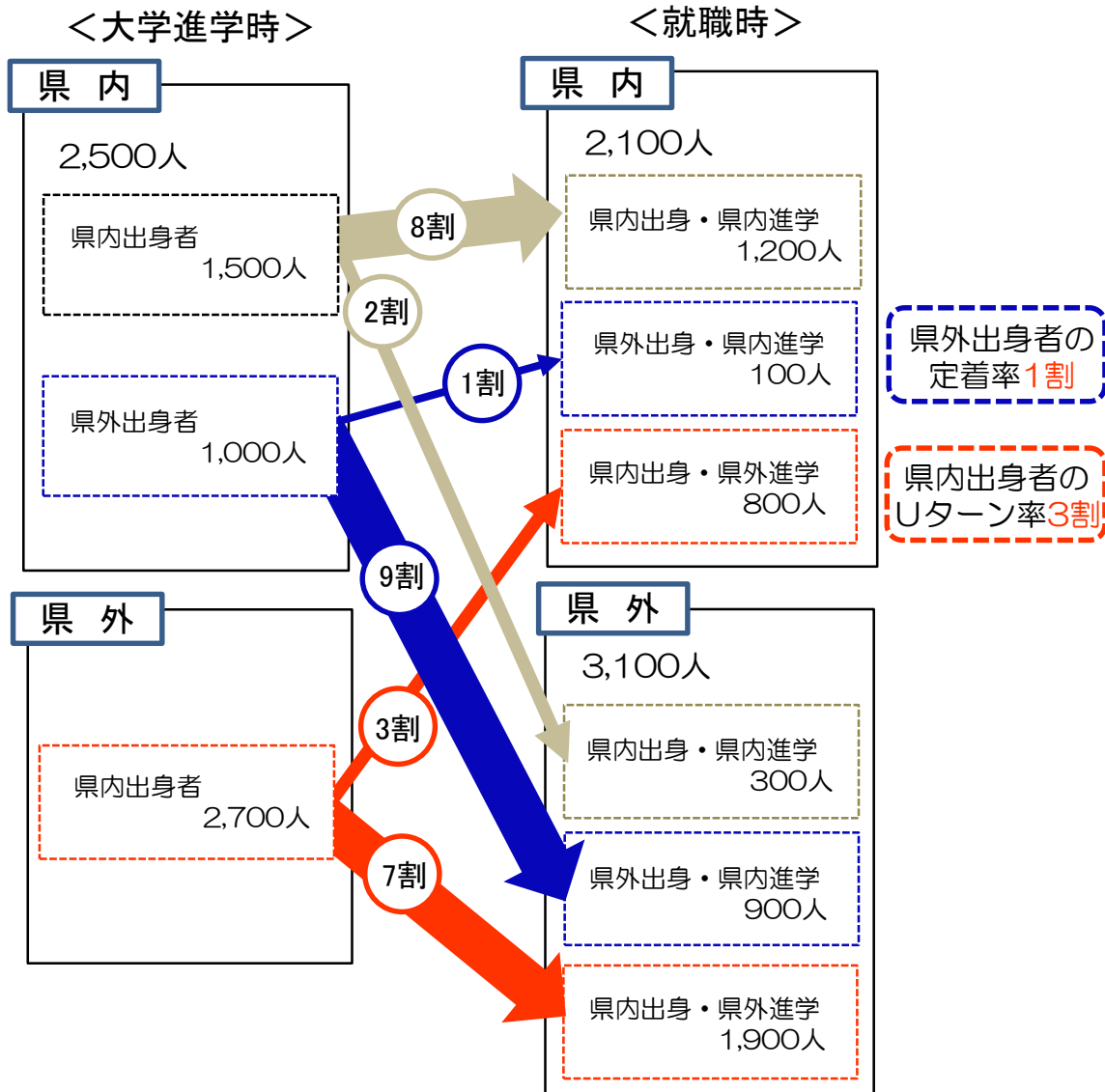
【福井県】

平成30年1月22日

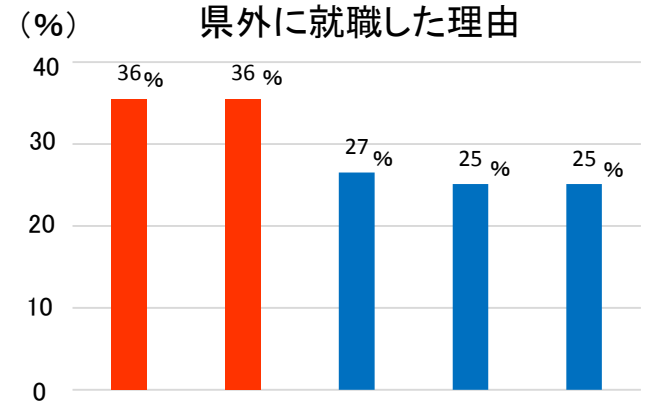
# 大学卒業時の若者流出が地方創生の課題

## (1)多くの若者が大学卒業時に県外へ流出

福井県の現状（概数）



## (2)多くの若者が県内で働くことに魅力を感じていない



都会が魅力的 志望業種の企業なし 大学の仲間 志望職種なし 大企業希望

県内外に在住する本県出身の20～30代の男女2500人に調査、回答数：765人  
 (福井県による若者のUターン意向調査(平成26年度))

若者の県外流出を防ぐには

- ① 県内企業や県内で働く魅力を伝える
- ② 地場産業の魅力を高める
- ③ 地域独自の魅力を高める

ことが必要

大学の力を活用することが効果的

# ① 県内企業や県内で働く魅力を伝える

## 中心部の共通キャンパスで県内就職を後押し

- ・ 県内大学等9校が参加する共通キャンパス「Fスクエア」を平成28年にJR福井駅東口に開設
- ・ COC+の共通講義を開講し、大学を越えてつながる（平成29年度 33科目1,262人履修）
- ・ 学生が**気軽に県内就職を相談**できるキャリアナビセンターを併設、県内企業の**社長と学生が直接語り合う**イベントなどを開催

⇒ 県内大学生の県内就職率アップ（平成27年 47.7% ⇒ 平成29年 50.3%）



社長とともに商品（ナイフ）の切れ味を実感

## 県外大学と協定を結び、早い段階から大学内で本県出身学生と交流

- ・ 福井県からの進学者が多い7大学と就職支援協定を締結  
（立命館大、京都産業大、京都女子大、関西大、関西学院大、立教大、明治大）
- ・ 協定を結んだ大学の新生歓迎会や講義に出向き、入学時から福井県の魅力をPR
- ・ 県内企業に就職した卒業生が「Uターン就活先輩サポーター」（82社275人）として、出身大学の後輩学生にアドバイス

⇒ 県外大学進学者のUターン率アップ（平成26年 24.7% ⇒ 平成29年 29.2%）



県職員が講師となる「地域連携講座」

## 学生自ら県内企業の魅力を発見し、学生同士で共有

「ギュッと60」 県内企業のアピールポイントを**学生が60秒の寸劇に凝縮**してプレゼン。就活イベントやYouTubeで広くPR【平成29年度42社】

「縁・ジョブ」 県内企業の若手社員との交流会を学生が企画。フリートークやランチ会などを通じて、県内で働くことを本音で語り合う【平成29年度46社148人参加】



「縁・ジョブ」での先輩との語り

ポイント

**就活前の早い時期から学生と企業等が交流することによって、仕事のやりがいや企業とのつながりを学生が自分で見つける機会を創出**

## ② 地場産業の魅力をさらに高める

### 眼鏡産業に大学のニーズと知見を導入

(例) シャルマン×福井大学 (県の技術を活用、開発費も支援)

- 眼鏡一筋だった社長が、大学と眼鏡の共同開発を重ねる中、新分野進出を決意
- 眼鏡の金属加工技術を活かし、福井大学医学部と**脳外科手術用ハサミを開発** (平成25年)
- 神の手を持つと言われる脳神経外科医から「世界一の手術器具」と高い評価を受け、海外展開も視野に年間5億円の売上げを目指す

刃先イメージ



グッドデザイン賞も受賞した脳外科手術用はさみ  
(GOOD DESIGN AWARD (<http://www.g-mark.org>))

### 繊維王国が培ってきた技術を活かし新たな領域を開拓

(例) 福井経編興業×大阪医科大学 (県は開発費を支援)

- 都内大学の研究者からの協力依頼をきっかけに、未知の医療分野へ進出
- 経編の技術を活かし、直径6mm以下の小口径の人工血管の開発に成功
- テレビで取り上げられたことをきっかけに、**大阪医科大学と心臓修復パッチを共同開発。人気ドラマ「下町ロケット」のモデル**となり、大きな注目を浴びる
- 3年後に国内市場、4年後にアメリカ市場への進出を目指す



伸縮性や機能性に優れた生地を医療用に活用  
(月刊「事業構想」2016年5月号から)

### 生産量が減少しつつある漁業に新たな切り札を

(例) ふくいサーモンのブランド化

- 北欧のサーモン養殖技術を波の荒い日本海に活用できないか事業者から県に相談 (平成25年)
- 県立大学、県 (水産課、水産試験場)、(国研)水産研究・教育機構、福井中央魚市 (株) の4者がコンソーシアムを組み、平成26年から**トラウトサーモンの養殖**に取り組む
- 日本海側唯一の水産・海洋系学部である県立大学海洋生物資源学部が全面的に協力  
来年までに日本一の水揚げ量400トンを目指す



ふくいサーモンの養殖風景

#### ポイント

県内外の研究者とのつながり構築や共同研究を応援し、今ある技術から新分野展開へつなげる

### ③ 地域独自の魅力を高める

#### 県が確立した恐竜ブランドに学術的知見を取り入れ、世界トップを目指す

～恐竜×福井県立大学～

- 昭和57年、県内の中学生が恐竜の歯の化石を発見。それをきっかけに県が大規模調査を開始
- 平成12年、県立恐竜博物館をオープン。現在では年間90万人が訪れる一大観光拠点に
- 平成25年、県立大学に恐竜学研究所を設置。県立恐竜博物館と共同研究を進めると同時に、国内外の研究者と交流を深め、「恐竜学」講座など特色ある教育を展開
- 来年度、大学院に恐竜学コースを新設。世界トップレベルの研究者を養成



恐竜化石発掘調査の現場

#### 大学の研究に県が参加し、国内外の学者や学生を集める学術・交流拠点を形成

～年縞×立命館大学～

- 水月湖の7万年分の堆積物（年縞）が平成24年に地質学的な年代測定の世界標準に
- 平成27年、立命館大学と協定を締結、年縞の研究を推進
- 今年9月、最先端の研究成果を学び、体感する年縞研究展示施設をオープン



年縞



年縞の研究展示施設

#### 県と大学のそれぞれの取組みを融合させ、新しい豊かさの指標をつくる

～幸福度日本一×九州大学～

- 幸福度日本一の福井の魅力をわかりやすく伝えるため、国連と九州大学が研究する新しい経済指標を活用
- 九州大学と共同で、子育て環境や社会のつながりなど「地域の本当の豊かさ」を測る「豊かさ新指標」の開発を目指す

#### ポイント

地域独自の資源を、大学の知見を活用し世界に通じる魅力まで高め、全国へ広めていく

## （参考）大学振興をめぐるこれまでの経緯

### 平成28年8月 ふるさと知事ネットワーク「ふるさと創生の実現に向けた提言」（山本地方創生担当相ほか）

- (1) 地方へのキャンパスや研究施設の移転など大学機能の地方分散を進めること
- (2) 都市圏への若年世代の人口流出を抑制するため、大都市圏における大学等の新設や定員を抑制し、地方大学の定員拡大を促進すること

### 平成28年12月 まち・ひと・しごと創生総合戦略(2016改訂版)

地方を担う多様な人材を育成・確保し、東京一極集中の是正に資するよう、地方大学の振興、地方における雇用創出と若者の就業支援、東京における大学の新增設の抑制や地方移転の促進等についての緊急かつ抜本的な対策を、教育政策の観点も含め総合的に検討し、2017年夏を目途に方向性を取りまとめる。

### 平成29年12月 国の有識者会議「地方大学の振興及び若者雇用等に関する有識者会議」最終報告

- (1) 地方の特色ある創生のための地方大学の振興
  - ・首長のリーダーシップにより、産学官連携を強力に推進
  - ・東京圏や地方大学の学生が相互に対流・交流する取組みの促進、地方私立大学の改革への支援
- (2) 東京の大学の定員抑制、地方移転
  - ・東京23区において、原則として大学の定員増を認めない
  - ・東京圏の大学による地方のサテライトキャンパスの設置を推進

### 平成30年度予算案および定員抑制等に係る立法措置

- ・東京23区の大学の定員抑制を法制化（本通常国会に提出見込み）
- ・地方の産業振興等に対する交付金（約100億円）、大学生の対流促進事業（3.3億円）、サテライトキャンパスの調査研究（0.1億円）に対する補助金を予算化（平成30年度政府予算案）